



## 4月23日~28日 in ペルー

## 4月9日~12日 in オーストリア・ウクライナ

▼4月24日  
いよいよ今日からスポーツフォー・オール会議。  
IOC主催の国際ミーティング。  
20名を超えるIOC委員が参加されており、このロビーイング活動は認められている。  
コーヒーブレイクやレセブシヨントゥムにできる限り2020東京五輪をアピールできるように取り組みたい。  
7時よりジョギング。ヒルトンホテル前に集合し、久木留先生と同行。専修大学レスリング部流の朝トシ。  
日本が取り組むべきスポーツ庁構想を話し合いながら、海岸沿いへ。  
14時半過ぎに「コンベンションセンター」にて、スポーツフォー・オール会議開催。  
IOC主催だけでなく、世界中から、スポーツの普及に関わるリーダーが参加。スポーツをいかに万人に普及するか。貧困層の若者にスポーツによる希望をあたえるか。老若男女の公的なスポーツ機会を準備するか。その取り組みをしている方々の表彰や、シンポジウム。コーヒーブレイクには、招致委員会の門脇さんや、荒木田さんや、河野副理事長などに、知り合いのIOC委員を紹介していただく。  
17時過ぎに終了。19時、ヒルトンホテル前バスに分乗し、セブンイレブン会場へ。  
音楽やサーカスなどのパフォーマンスが繰り広げられる美術館の庭に設定されたレセブシヨントゥム会場。  
ちよつと体調が悪く、地元のイヴァンティボス委員や、キートンIOC会長の発声で乾杯。  
「イボス」を何杯もいただいたながら、ちよつとでも荒木田理事や門脇さんの案内で、セブンの皆さんと会話を。東京五輪招致の印象付けは、こつこつとした会話の「こつこつ」が。

▼4月9日  
午前中、カジノ・オーストリア事務所にて、シウトスNOC総裁、フルム副総裁、メンネル事務局長と懇談。  
両国のNOC交流について意見交換。  
また、オーストリア議会で現在審議中の「新スポーツ振興法」についても、意見交換。  
「スポーツに使う予算の最低限を決めること、各競技団体の配分について取り決めたことがポイント」と、いすこもスポーツ振興予算確保に懸命であることがよくわかる。  
日本でも、e-sport法改正とJSC法改正が、議員立法で成立間近であることを報告。  
両国のスポーツ交流についても、アイスホッケーを中心に前向きに取り組むことの提言を確認し合う。  
▼4月10日  
15時より、ウクライナNOC事務所を訪問し、役員と懇談。  
40分間、その後、ウクライナ国立体育スポーツ大学へ。16時20分より、トチャク第一副学長と面談。  
意見交換と、大学施設視察。  
副学長は、「ウクライナを代表する一人のIOC委員は、ともにこの大学の出身者です」と誇らしげ。  
とりわけ、体操フェンシング、陸上、レスリングで有望な選手がたかさん輩出されている。  
五輪メダリストも、過去の卒業生では、100名を超えたとか。  
「我々は、ソ連時代は強化に特化していた。しかし今は、時代が違った。スポーツフォー・オールの精神で、すそ野を広げる政策だ」と主張する。かつてのウクライナ青年スポーツ担当副大臣だったトウチャクさん。  
「経済的に困難な人でもスポーツを楽しむように、まずは学校でのスポーツ施設整備に力を入れている。」



# 自民党2020年オリンピック・パナムンジャン東京招致推進本部長を拝命!!

▼4月25日  
晩ごはん終了後、またまたバスでホテルに戻り、さて、これから本番のパーティー。ヒルトンホテル1階のバー・入口に陣取り、出入りするIOCメンバーと、酒の勢い?で情報収集。  
ちよつと通じかかった、勝新太郎さんそっくりの、マレーシアのイムランさんと、杯を重ねながらの懇談。  
こういう場でこそ、語られる本音があるようだ。  
できれば、竹田会長も水野さんも、朝3時までバーにいてくだされば、情報収集できるのに。  
でも、その人の人の持ち場もある。せつこく安倍総理に派遣していただいたので、こちらはこちらで、情報収集に動きたい。  
イスタンブールも、マドリッドも、それぞれがロビー活動の専門家を派遣してきていて、負けてはいられない。  
▼4月26日  
開始前に、「コンベンションセンター」会場ロビーで、北朝鮮のIOC委員、チャン・ウンゼン(ウィーン在住)とご挨拶。  
「チャンさん、初めまして。日本から来ましたはせ浩です。」  
「あ〜、はせさん、あなたのことはよく知っていますよ、こんにちは。」  
「光栄です。私も、アントニオ猪木さんからチャンさんのことはよく聞いています。」  
「猪木さんは私も2回会いました。力道山の弟子です。ね。そしてあなたも、なかなかお会いできなかったチャンさん、ごあいさつできてよかった。リマに来てよかった出来事の一つ。」

▼4月11日  
サファイリン・ウクライナ青年スポーツ大臣表敬訪問(於青年スポーツ省)。  
サファイリン大臣は、「馳さんの主張する、スポーツを通じて国民の健康的な生活を改善していくという考え方には賛同する」とおっしゃっていた。  
ちよつと、ウクライナの男性の平均寿命は62歳。女性は72歳。  
「ソ連崩壊後、人口が20年間で700万人も減少している。5300万人から、4600万人まで減った。高い死亡率と低い出生率の原因だ。スポーツの力で何とかしたい。現状は、国民がスポーツをする割合は10.11%。スポーツ施設が減ったからだ。財源を確保し、施設整備から何とかしたい。」と。  
ウクライナと日本のスポーツ交流の具体的な計画を詰めるようにと、提言。  
坂田大使が、ぜひお示し下さい。私が日本政府との間を取り次ぎますから」と大臣に伝える。  
ウクライナは、2022年、冬季五輪開催地立候補と強調される。



▼4月27日  
ネパールのNOC事務局長が、「馳に話があるから、ちよつと立ち話しようぜ」と声をかけてくれるので、ロビーで立ち話。  
「ネパールという国は、日本から大変な支援をいただいて、国家として自立してきている。何かこの機会に返したい。小さな応援がもしないが、何か私たちにできることはありますか?」と思いがけない申し出。  
これには、通訳の門脇さんも不肖はせ浩も、顔を見合わせて感動。「申し出ありがとうございます。2020東京五輪招致活動への応援と、レスリングの五輪競技復帰です。」と説明。  
彼は、「わかった。馳はオリンピックで、レスラーで、国会議員だった。日本の目標が実現できるように、何でも応援します。」と、うれしい言葉を締めくくられた。感謝。  
※国際会議でしか接触は許されていない。  
● トマスバツハ(ドイツ) ● ボテロ(コロンビア)  
● チャムダ(カンボジア) ● イヴァンティボス(ペルー)  
● ハズルダ(アルジェリア) ● イムラン王子(マレーシア)  
● マクリオーネ(ルカニア)  
● パリ・マイスター(ニュージーランド)  
● フラカ(ウクライナ) ● ミヤシタ(シンガポール)  
● ラムサ(南フリカ) ● ジャックロゲ(ベルギー)  
● サンチェス(パナマ) ● シンチンスカ(ポーランド)  
● ジェラルド(ウエルト)ハイナル(セントルシア)  
そのほかにも、ベルソナリ(カナダ)連盟会長、重量挙げ連盟会長、ロシア、カザド(ロシア)連盟会長(ドミトリー)、チャンニコン(ドミトリー)連盟会長(アチエリ)連盟会長(スラング)など。

## オーストリア・ウクライナ出張 成果レポート

テーマは、スポーツフォー・オール。重要なポイントは7点。

- ① 社会的な困難を克服するモチベーションとしてのスポーツの役割。
- ② スポーツインフラの整備と、財源確保と、法的バックアップ。
- ③ スポーツと教育
- ④ スポーツと社会保障制度
- ⑤ スポーツと外交
- ⑥ スポーツと平和
- ⑦ スポーツと環境

オーストリアとウクライナの政府関係者、経済団体代表、日本企業代表、NOC関係者との有意義なミーティングだった。  
ご指導いただいた皆様に感謝。  
また、これ以上はないほどのセッティングをしてくださった岩谷&坂田両国大使はじめ、外交官の皆様へ感謝。  
自分のキャリアを改めて振り返る。  
● 日本レスリング協会副会長  
● ロス五輪レスリング日本代表  
● 専修大学レスリング部監督  
● プロレスラー  
● プロレスラーとして、北朝鮮、中国、韓国、イラク、ロシア、グルジア共和国、エルドラン、カナダ、アメリカ、力の遠征  
● 元星稜高校国語科教員  
● 元文部科学省副大臣  
● 元WADA理事  
このキャリアを生かしたスポーツ外交に努力したい。

- ### はせ浩が考える、五輪招致活動のポイント
- ① 「なぜ東京が、の差別化」…「世界一の安全・安心・ハイテクなスマートファースト」
  - ② 「東京物語を、招致委員会メンバーすべてが同じレベルで語り出す」…「スポーツ基本法成立」と、財源法改正。新国立競技場の家賃の削減、都市とスポーツ
  - ③ 「情報共有化」…「IOCの竹田会長、水野副会長のサポーター」

